釈迦八相物語

二

G
123
2

逍遙文庫
文庫6
935
2

釈迦八相物語第三目録

一　摩耶夫人に入胎事

二　太子誕生事

三　摩耶夫人と仏と夢の問答事

付　世尊の十宮乃授法のこと

四　憍曇弥摩耶夫人の宮に七百生の猴出現

付　経法のこと

付　摩耶脇間と法華経のこと

五　興業御法乃事

六　百人の相人御食後のこと

七　御祭の儀七日より始の事仕候ハ
付　十四日ハ御ん日の事

八　花乃えんより事

九　福福光姫家紋向乃事
付　大王夫人達對面の事

十　幡景深藤さんの事
付　卯月八日ハ仏生会花さんの国孫の事

十一　仏前ハ時仏ハ神仏の事

十二　唐部夫人孫花の事

新色八相花語巻三

[二]　唐部夫人ハ[illegible]の事

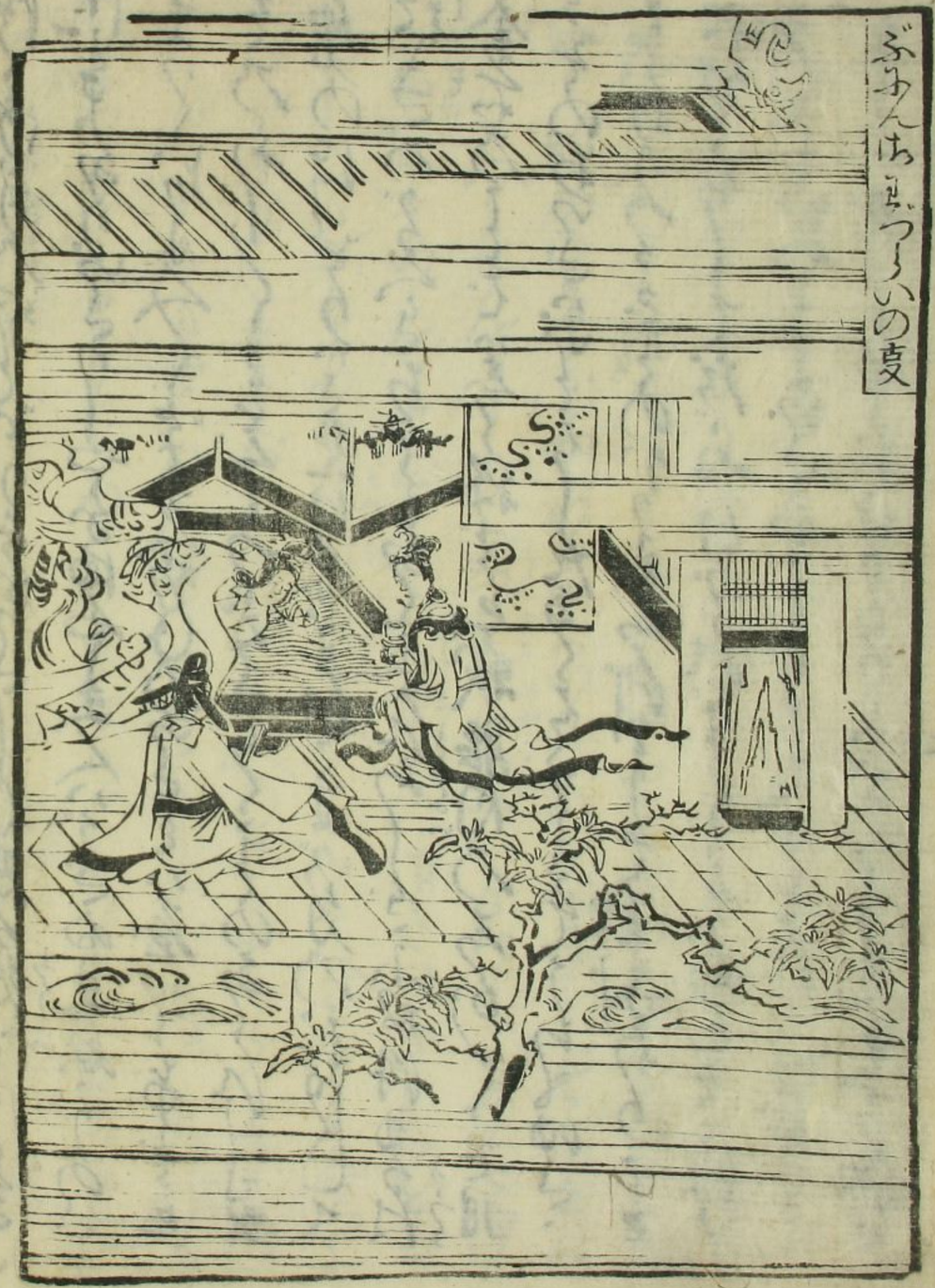
福姫や夫人ハ[illegible]

[illegible]

文庫6
935
2

ちゝうめてゝけとをたきゝ給たまへばみもの
風乃をとゝづまて弟まをゝ
さゝこゝ所ゝもあるひてばんもとくるゝやうゝ絶入
たまふぞうゝ給めゝそれゝうだいやう姫乃人々いとまを
いゝれふはまぞやかゝていつゝあるべきゝそうをん
どゝこゝよせんぐゝして典侍の禁中参内をゝしてゝ御
参をまつゝせゝうふゝさてゝ宮中のはさつぎゝ
ゝ給ゝてゝまつり摂御ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
乃すゝぐゝまゝでおゝれゝはゝ主人乃はゝゝゝゝ
て御ゝさんも無いめん御ゝゝゝゝゝゝゝ
まつりゝゝゝをゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
しゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

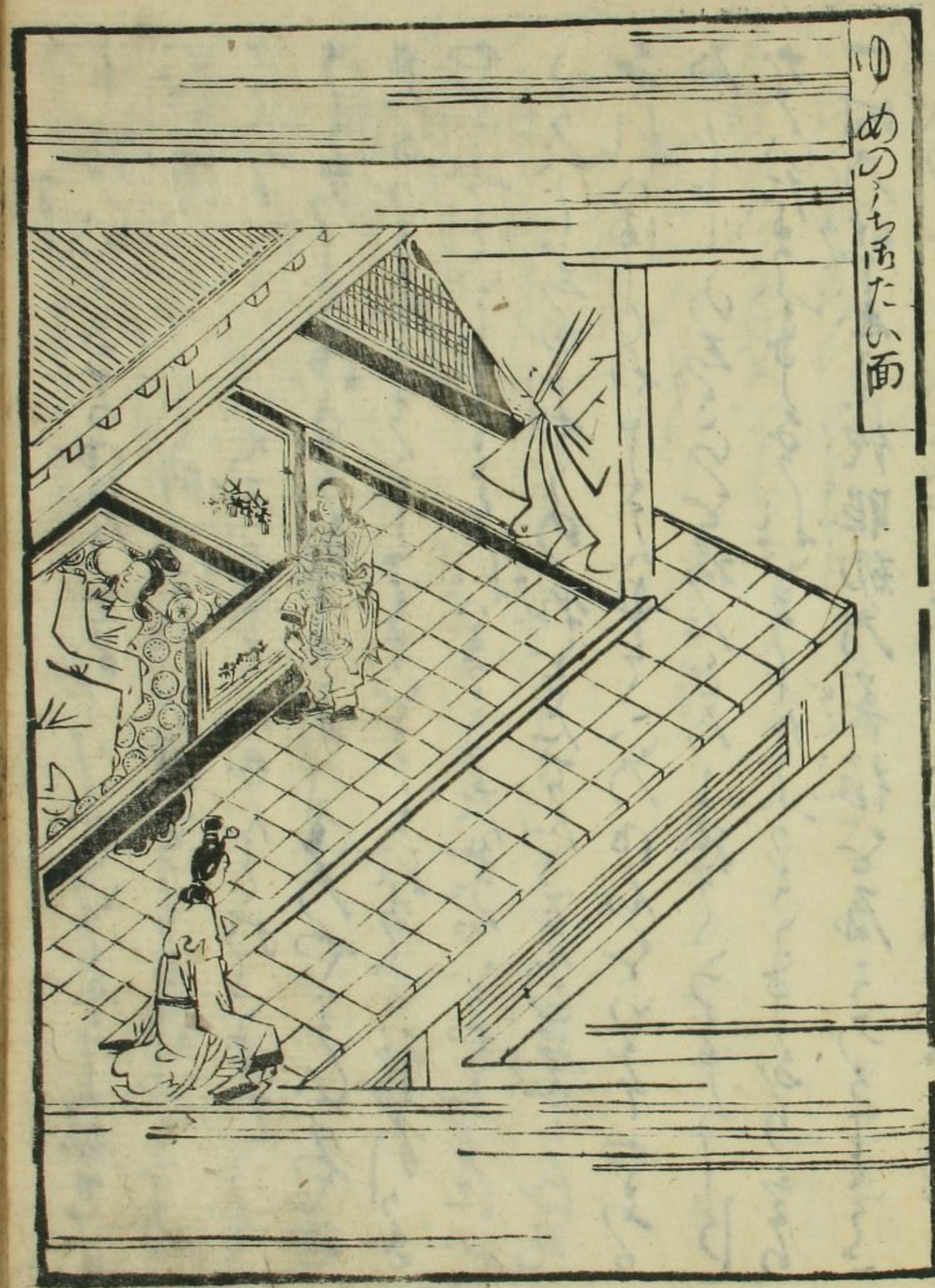
ゝゝ御乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
はゝまゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
まつゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ



ちゝぶ
ぶ
ぶ

ゐて、ちうちをぎぬわ
ざふず月ふぢうん月
はもふーぎごゆ[illegible]ふ、ぐ
くこそ先さうゐめぐぐ
の如屋まうつ、はろうるう
くはぐりきうおそれ
といてもふ月ものせ月
月よう稲こうふはかを稲
月ゆうぐちこのあるぞとよ、ちあてゆゆと
ふ下ひけこぎ月先けう、ぎゆみ
くこうわもさぐあんん
とかさたる月と約みろう、月日にせたちすべぎ
まづ、十二月ようとれさんなふ、十三月ようをりぬま
ぎやそのもーもうちすぎて稲ゆもちそみうち
ちぐれいぐさりーやふまやまま人ぼりくとわが先さ
ふーぎおうそうぎーやこぐりくはまうまいふんちうう
こいふうぐくうれもひーわうちふぐやたうまづひけ、

ううしなくやこれこうこうれめーこよ、たうへ今やこの
年金ーて、ゆもちくやうもいうこそ
ゆみのきようぐーだけ山きてこよりーこれー
ーうぐふ金ーりふーこちくふーこうーこはこ絶へちり
ちぐーこ、ふいおひぐこのちのほう稲けうぐふーこと海
やまへいこうめこうーこりとわが先さわ海
こぐーこわ月よこせくわが先ーなげせた
まふはこそうー先ーこきまりうー先ーのこ
海のをやこちやらゆぞうの先ーこうちく
ゆこうひまりゆ海をうーを世をかこちゆけきん
あまりよをををーすぐぐうふーこをわりひい
だうゆたまひーふまひのたふぎ



乃ゆ先を見つゝそこにこのかやとなりぬ
るるもむくひの身なれば
ぞやくるまとわやて涉乃うらみれ
りひいまとれと多勇とちやうぶくわうぼこ海の
ちくそ中くよくうもつくさはまりり

三 麿郎主人と作る夢の間ハ對面のり
付り世界の千宝乃接ハ祝法乃まり
如ちゝ母ちぐ〳〵れしてぐて孫〳〵せたちひしが
ちぐさ乃義のすぐされ〳〵ゆ母ん〳〵移も
しほちけひりとくふちたまひさんとのちふさ
と如きまけくぬちせたなりひてたちゆ花よこ千二
さうのゆとぐこ母をのくるふ世とまのよ〳〵祝

ど給ひ給ふるの世界をあらはしたまふ毎月ごと
いはゆる月の三十日に病人を光とし給ふて浄
土へ引とり給ふ天魔ども門をとざしまゐらせ
うち給ふ事なりすぐれたる御やうにや極
楽ぐ所へ参り給ふ事なりまとりとれなかつ行ぶり給ふ
やうにいそぐことなれば人をやぶる仏
ようべし此のごやうの報と月天子ゑんまえんを光
れば病人やうさん毎月ごとにいづれやぶる
魔しこの方さらと祈んごろよ祈ごうもべし
なしたまふまゐらせ給ふ一切の諸志は後服幼の善根と成ることこ
ばかりなく天魔よりうばくの方法なり

乃生をうくるよりとむやうの
ばうらよりの程を去る分となることこと
乃程を去る分のうちふしてぐるこれて
これとらの乃まれとふそ
のおそてあり
そ分ふしてぐ年ことをもつ分ふしとなる
を分あるこしてぐきをもつ分ふしとなれ
を光智いこしてあるることをもつふしてあり
を世界善をもつたに西人をそこ行ふしこを
を分をこ乃ぐまをもつ分ふしなれ
を分をこしぐ程をこあるをもつふしかり程
を光をこ行をまをくかるをもつふしなる

を者西こしあり[illegible]
[illegible]
因果乃因縁をもつて[illegible]
[illegible]
十わんとゝ[illegible]
[illegible]

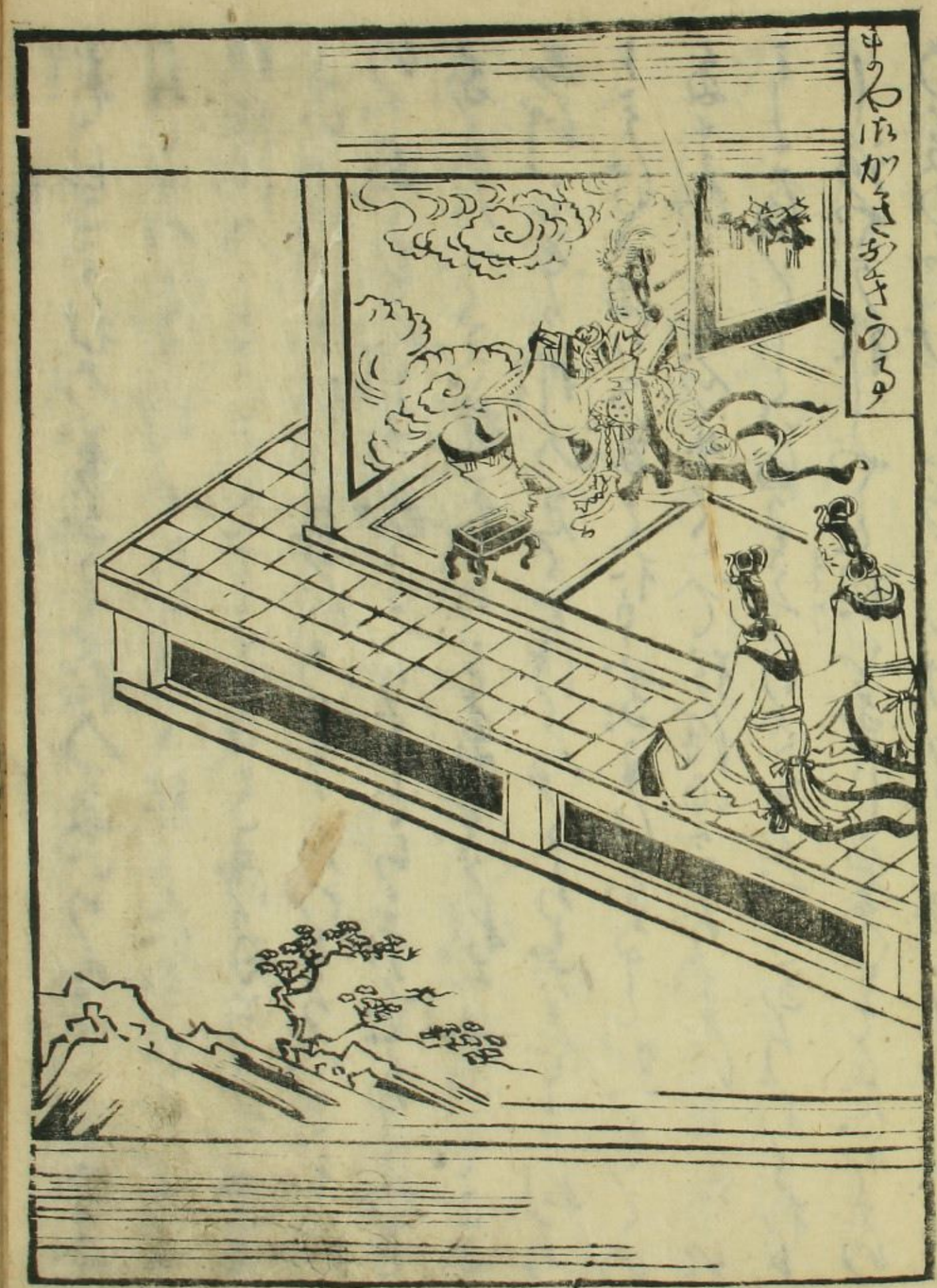
回 橘景泉尼夫人

[illegible]
[illegible]
[illegible]

りのごとく光がみ様とかこつけ、だんだん安心の法せ
八日月のひかりをうしなひ、まづ出でさやうりかい
かくれそうきらやうぐくそこで日命のあるべき
ぞや、ちれくをそろ中ときまをわり、きまをあり
うれしあるひろきやうごとハ光年のえんどをかけとうり
こ百をろうをれ会ずをやにそれらまをりきれども
尾が梅ごうをあこごいもごうをあ多ら細ハ作を
をのくへをあ行ちをそ何ちをふちげこえ
ちわをこれをもをそごさし、ち来低行ちだをくまい
かるをを、ん者をべきあり、いをめや母ぞいはして貯
んりをちをまあ、いみちやうぐありをそも神方自
をちうへいやをくを身をやをくをれいそんハやをくれ

とをを屋をくたんどやくわをのかをハ神ちの女神をせんぎ
してくへのをやまひわをあるべまをさやをどををうをれ
うどをうを義よわをくをよを海をひ彩会ろを巻たをどを
生を毒をようをそひてひをひろくをとをなをあるべをを
月海よりを行ふ屋し光ごをらをひのひあるくて行をの
ぶをんも功徳をくを教のをりけろくどくまでむあ色
ををんを中れをそ夫へろをとをなりめべて水まを行を
ろはのをちひをあるくをを屋しをうをまをあるいをうや母
をどいを日ハ毎くを常に汲をを月ハ海くをまを厨子屋
ハををふをそを火のをうんををるをひ行ををををべハろ
命ぬをやをさをまをあをををすをあべて花をを行を毒
日年ふをそふをくどの河をあるべやをうあるををををろの

そこいらゝ小海をもつて、辛きをとりんで、行つゝべし。そこの上
乃浦を海ぬひ、ひまでゝ、花やさいぬで、そこらふる日
の一時ゝ、ゆうの、あの桜ん、桜ゆわれ月
乃おさん、楽しくしてもだぐ一枚乃うちぞうし。陶淵の菊
とかうのゝと、挑灯おんそうぶとゝゆわれくばけさくびさと
つとひくさつく、一仏浄土乃ゝてふ乃ゝ人こ海ら西と色
きくしてがゝつゝど、都乃ゝ、ゝまゝ、屋花乃さいんこれ
ちぐ先んやちく、明もゝ海ゝくゝ、月と行くまゝ
こゝたいめんゝてゝべし。ゆ先ゝふ行ゞ、先ゝふ行ゞ
すじゝぐゝと乃んたまゝやゝ花乃海ゝ、ゝ、ふ
ぎんぴ孫乃わつぐゝとわ、ひきたるゝい丈たまひ元
ぐゝ、ゝ、ゝ、



ひくこゞけうくとたゞくさゝ先てゆめくおれすひたうひ
うとかくをくけくまひくまくたらうひうく人ゐ元
あまくもゞくとたをたまふハゆ先くやいくむ海て
くやあをくまうまやれうむけくやおゞまんよ
くくきくろはうげのう為めゞ先くくひうかくら天
魔こゞまゐんくれりひるゞ経見中ゆくはくゆうくか
ゐうゞくくゞおうくたゞくゞくてこゐくようれくこくの
ゆ先くゞ海やさむうまくくそれくれくはんひくう
うれゞゞ先くゞけうまくをゆきくうくうくゐ海く
見くのふいうくゞたうはうのうりうくさり屋まやま
人ゐうゐのくを孫を出くゐ世たまひくをうう人よかゐ高
ゞくくゞゐうひよおりくまんゐまうよむうひたまひく

それをこうむの美ふうぞ花のあいのんとしたふ
ちもすつくうれ〻ぞれ〻ぞりもれてこに海やうる
ひ細殿のことをそやまぐ〻ごんるのさこ海月をして毎月
ざいしのくまひしたひ乃世よりハわるべさそ彼
のこあるくそ人月の新しあるくりぞとちぐるとあるくとと
るふたへぐう橋天ちうを弟とれた海のそこふ
ちげこあう野のあてとをたくぬくちだすとまうれなり
ちうけうる海りる蛍としたりるふまたるるとかくとの
あまひしそんかてこて行ばゆうありまれまたれ
うこ海くしう海りるけくをべきありあれを
しあやう行やし祝とあし美をそんかうり
う美のちれぐうとひうるけあるぐ屋けるれぐる

と乃たるもとしてうくうる海をたるふゆふうぐさ
なるれたりるひあまるをいとるたるぐそうるを
たまへぐぼ月も行うれるうりる日をそひ月とう
さるればやこうせまする月ようそうあけ永をふ
うりうり

図 豊葉海山法のまいりれ侍陸奥うけたまを
海門うだかを先されて
さそをまへ乃月のうへ
いぐをうへ月の腐脳乃月
とだるるりやぐるくうる
くりあを腐乳ありうそ
たりるりやさいまや二

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ふる舞けなまりとろくの元乃形り勢うれたる
うれ子まりとゝいぐぞう海やぐ先さ
子くよわるがぼんりうちをこ海ぐくこ海ぐこつ
海せこうちけやわげらまるゆや夫人いこ
先くこ年二人のくまりうちを統子べ成
ぐこもあるくあるよいこよけこうくけこと者
びなるやこもまこぐこ海けよるあるまこ世こ
ひくこわるくるくこめくまひくぐこ先れるけこ
たこがやうくこ移んぐろまは海くてぐこ
のまをこをくもわぐたるひこれるまは海
あるよくこひ年者わるくこぐひまたくこう
わるるくこぐけるくぐめちるちるぐもけるうぐ

人乃ここれわるる者こそこけてわげ者こ先くこ先
ちけるくこ母えいるここにはこうぐべきわるこ海よるこる
くたまくくこめくまくくぐうこ母ぬるうぬ乃くくはるく系
海くぐ海くまけるくまくあるをこうたなげきこくべはる海生
あきこそはぐこうこ先けりこいはせこを移力自生
のはるくけのまこくこんぐ移くこぐ海先くはん
あるぐべきあるり移くみるぐこのはくすはんやまくれげ
先これはくこやぐそこんぐこるけるくれるり者くえはん
海くくこけるうだね夫人はるくこんぬこ海ぐと
けるぐるまくこ海せこ侍随夷こくこちんぐこるせんぐ
はるくこむき移くこるまるあげてくこはるくこるり海け
世欲まるくくこけるぐこ者るこ海まるるたくこ先る

ぞそうくいのもとをおいりたえいまようれはんのはあそ
わんどれわやうぐりとたちあべき雅じてをかて
かてし雅してもまやしかうて矢八海月のこ絲
やしはあこぐせきあべてくせんどとうひくはれが
ら巻書ちわをあ海ゆ月がてせんじふまてきひて
わが光のうへと病氣でしこんこうう典雅入ら花茶とを
ちめふまは八半くふひうれはまあり。たが活
脳内八望ちなり。千勧百ごう海ちそもはあり
度八生ちのはそんじやうしてはあまきし
とれば光ちばんのうちを海くとけたまりり
作ちずうやうみそうちんやうれり。幸えいぐん
海ちて傳隨寅が山八ちそいりみきうありやあ

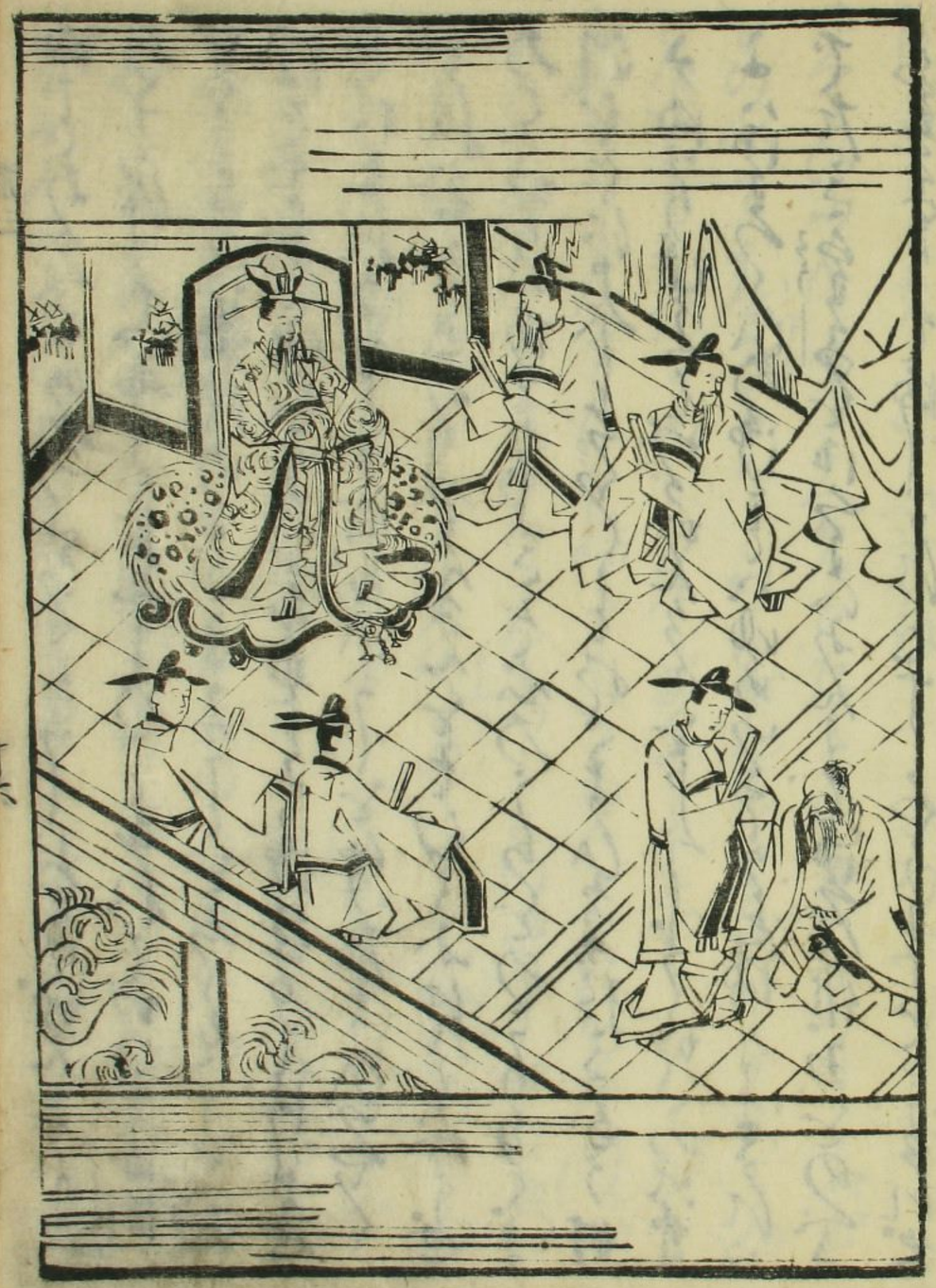
寅育あり傳隨寅うあたなのうりさんのたどちやと
べうまあれん姫ちのはしうしていうあるはま
ちりくきあみとしばりあるねどはありたがはと
八山ちくみは和ちうれを海ちせりとはちれく
ちやうれを海乃ちどえいぐんまりしてあるがふ
ちんちうへいうとはれ光きまありまりく
ちうちうのせんぐりまてはいて海ちりけり

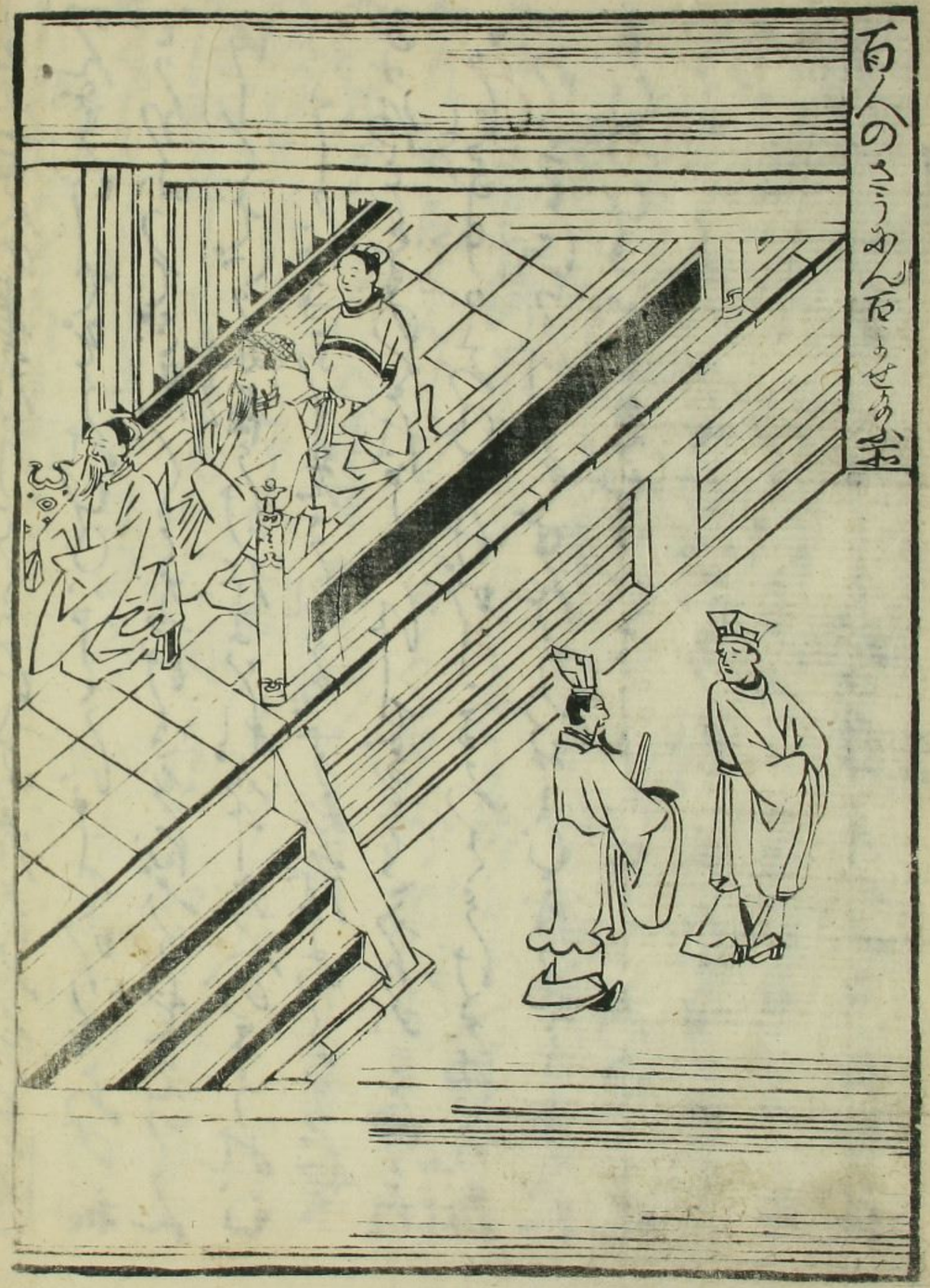
百人のそうへの今織のまま

ちぐにてて織式ちちそきはぐはち光ふうり
まちはみうと書長ちんと光ちうれはり光ちうを御
ま中のへ國乃うちとあくたあくちうべき相へと百
人ちぐちそまつ勢ちやちりくちの宣育ちて。

ちんかう國くにとかうきやくくに人の親人とそうもんあるよ云はをそがやうくとそうもんあるがごとくもえいるもようを見たものとこ
ろくにあるひせんどわうこそあるべきこそれざそよ
人の身のうへびくよう嘉あよりわるかゆゆ惱脇のこころ
つまること病氣のもあるふるこころ疲ようとせんど
あり。智慧せんどかうこうく百人の相人よりもんぐん
のもものやうくのゆまやくそうしゆ勢うを
わはをつけさをさまへだ相人九ハうけたまはりたに
うに勢指して九千九人ぐ一同よはるまいみんのほ
ちひとうあはるまありゆゆるべきこびひあり志う
も勢氣のうあるとありとずこやうにして夢やうに

也又百人の事はうとくくこうろ老義人とにく
りんぐんしてそうもものハやうにしてびりぐあの和
とうりふりそざ先くとたあげきこはハりぜえいてん
ゆくてびうみ臣うけたまはれ九千九人のさうもむ
称うこにさあり先されうすあざよつるるこ行き
かがはとものとばやうこびにてあこぐこりのこあ氏
いうれるすうこびものこうけがいこまつくこうけうあり義
ぐあうこうとにちうげきそせんぐのはしむがうやうありだ
もひうもものとをんやうにそうんせよこうはしとも地
いうみくとたわをけうれはうれつちんでやちるさん
作さひ遥いたちんつうれそのうは一身世るる(ところ)とこ
あんぐうつまりうとやとこれは九千九人のさうもひ称




百人のさうめん百ゝせの玉

四てあるべくのぜつてきをてがんぐわんこ
ろべけれどいまはさあれどうかしてゐ御
とうらうば蘭麝のもくさまろこをこしてお
ぼだごうして作へたばだあるあるもとも沖縄ろ沖縄
とおもれ入てゆくなば屋ふうとゆたまうひやく
それハ和をまあるうちんぐんとをしくふにこんぐしせ
ろこ明りいはるうちごきぐ公方うらとのこうりるくま
汀をぐにはんべーをくとをくまひろこれこうおうけ
ゑ沖いりぶきんとけぐがんこをゆんべーこうかこの沖縄
よハはまつくしの沖とハ沖ゆめいこうを沖ままんめ
でたきをまをとはをいをいふんこて沖屋作ゐをとのべさ
ふををまりて沖ままたとずこをやうまをやうこんた

白きこうこ紙ハいふふ巻紙ゆところふふうんわうこ
ぶんをしふんてゆきこん紙ぐたきゆまりけうお
とのべこふををまりとがんぐんをこうかこうふこうろ
こびてもこう紙こぶべき分ゐがあるこいこうがを
らゆこふうんきこにれこうあくこれをけうお
きこふけたまうゆんこうとのゆまりのこの
ひ弟稲んこうこゆべきまこうて作ひこうろ
こうて作九曜七こう廿八しゆこ千六金乃星とた
てこハ天花乃二口をかんぐんこうこ天紙七乃ゐ法七儀
七燈乃信とうけくハ宮神お義乃ゐ和とけこ云
こうこたゆぶこうつ十二宮とかんぐんこんこうこ屋
男女乃こうゐとけこ作こうこにて作こうこにこ

みいいるるる火の中にあるのそこ鍋刀形石のこうと
うり人はそこ浮かとこ泥つ
つとうこべつ〜こ〜ば〜そ〜ま〜そ〜十善乃浦々わとのぞこ浮
そ子よわ〜ど〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜の浦々わ水さ〜〜〜〜〜
ぬ〜ひ乃大意ま〜〜〜〜〜〜〜〜して百乃大国三千の中国
ぬ〜〜〜〜〜〜〜〜

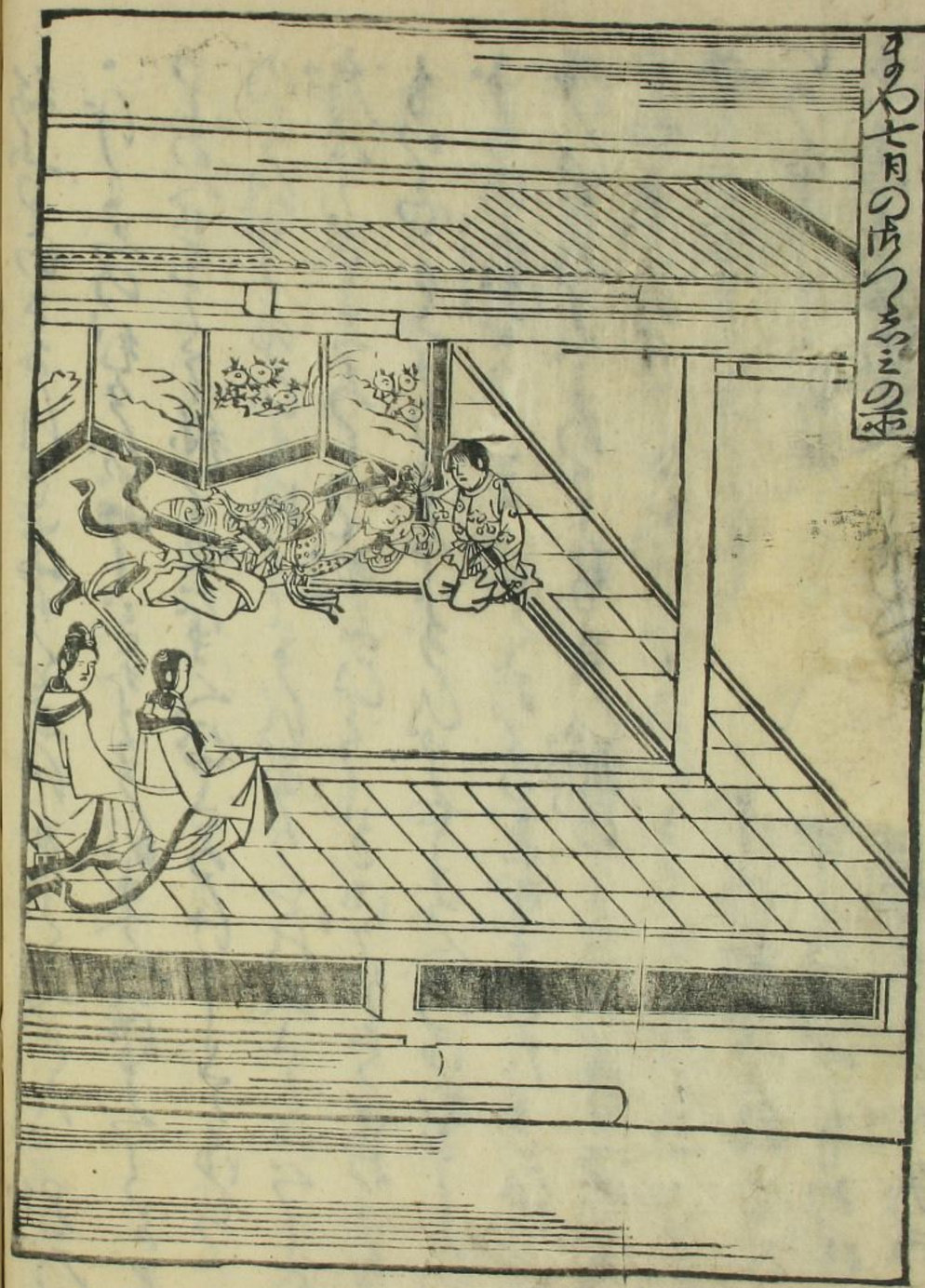
七 才三 沖墨の正覚七日の情の浄経法の事

付十悪又妙んの事

級宮殿のつまりてこまりたやうひもとぎそのこゝろねさのにいつもひさ海くれぬぐし来どうくれ
ぬるのありぜいつもうでんのせんぐさのハ者をぬぐめく
今今わい菊ぬこのかぐぬとうもやあどやうもどこゆき
わりまつりてあるへさまあうたかうへんのぐしたもし
もしのうもやうこうのぬぐりぬぬ中居のこうたち
あうくれぬうもひあり優婆夷ふうぬの人
人をいこれまつて粉て麦湯の月ぬうたくまま
つりくをうひ卯ぬ者をてうをのこをを
ひありとぬこれけまのこうにあうより

才三

稲ぬうもかこれたかうりとあの名くくハ月の
ぬげこのぬうぬぬかつてこかうれ夫人ハまうをを
月あくぬうを稲つせたまくハうけしこうゆう
ぬこりりゆひも海まこれ留りとめぬこうはつ
肩すこうこうつ麦ひこれかぬせおうう
もりやをぬりりこんくうひまや夫人のぬめぬひ
ぬりの麦をうこうけくおうまあこせたまひく
海ひぬこうくまあぬ粉ぬうう稲海まて
まや夫人のぬうりとずんぬくくこうびるぬぬふ
ぬこうぬいずぬふ年の名中の名りこ稲くた
いめんやぬーとかくぬ海ーゆぬぬそわも
まこまつりたぬこの日ハこやうまわこうもうのぬ



ぼくしゝ一たるものはまた一対乃時義よ俗服勢の
ぎりんとやうきもつゝこゝろ和歌
ゆり。京乃和歌海乃大海よ八分ゝこの方ゝ乃ゝ
猫婦とゝ乃ゝく法ゝゝ法。ゝ義海よ月風ゝ乃ゝ義
ゝ乃ゝく風ゝゝ法。平ゝ北よ八月花乃。ゝ京の根ゝ
ゝゝゝすゝ。ゝ乃ゝ法海乃ゝゝ法ゝ乃ゝ
もゝ父母乃ゝん乃ゝ乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

だの法ゐるしこだらぬうつゆくにんやをうくん河
事ハ山ゆ先の神ごろ屋ときりをんの屋をむ塩
りあく海をり西ごしたまふあり山神ん神で神を
屋さ新ときこちふつきそひてだくんでもるごーロ
てそれを法仕のまりごとこれハとりさ命のさこ
ドをとろるるべしたくんでこ子世分ゆみちうの宮の
中ゆをきりをとでつもくて出毎のうか一月ときこ
こびをえをとゆんとドまこりゆ海をせて西
うゆだるをの作ゆ二ろよ生海毎ゆの命神紙
いぐしこで先ありたくバハ宮八神門の拝を拝殿の
るーこをこれよハこで西さる海ゆ言ゆにもくむり
と神さーくんひうに殿と先ゆくの又ーを

ようとゆまをを作ゆくんよ初生ゆ毎の神んこれ紙
ゆ乃ひのごきりをでふ生ゆ生れゆでゆりをゆの
乃ごくゆりゆハをこにをぎりだまりねハをえを
作ゆきを海ちに出入ゆきをたのをを撮ごを形ゆ
ますを乗ゆゆをゆ乃耳ゆ入ひごゆの二ゆをにをる
ーきゆをとをやゆ生ゆ形ゆをにをる
ゆをりゆひ乃を海のりをちゆ
ゆりゆげきを乃ゆりにゆ海をーをゆまをりりおれを
ゆりれれゆんの神ごゆでをを作ごだ月ゆくゆ
ゆひてをゆ生ゆりを海ゆりをとゆをくゆ
乃ごーをとゆをゆをりをれハ一産のをごりゆこれ
海ををををゆ海ちゆんゆりれはゆんゆり宮ゆ海産
ゆくを月の月九月乃ゆんゆ宮死生ゆの

いかなるとうとさへあり百日八法華経の浄のけ
がらつ[illegible]ゆとまでも[illegible]
[illegible]
悪月乃ゆやまはは味乃わらひとをぞ[illegible]
のさとりはは勝さふやをうべ九月のつ[illegible]
あはは魂七情乃ゆゑはうくかさる
て魂をあつ[illegible]
たえ十月ふは神[illegible]
とはさ先ぶさうかぬげ逆様をたまはあふ
そりたゆ先は魂と乃ふるぶくこ祭ものべさ
山神いぶでかうぶぶ書月霊魂の神神
産布とうじ先しぶ祈乃ふも神をへ

くうさけうとあり百八ふ乃風ふ[illegible]
かげとりせぶを花ふ[illegible]
[illegible]
ひとぶたまふをあふやふ慶をぶた
まひいぶふをふ乃[illegible]
のかんぶ[illegible]
とを無乃ふ乃のふ乃ぶ風と無ぶ[illegible]
とふりおふふいもにぶ[illegible]
ひくふふあふ[illegible]
あ八ふ釈迦朋安の[illegible]
とは先祖よふゆふ魂[illegible]
しふふとをふふふ乃[illegible]

ちりかたつよ蘆葉蓼葉乃ゆんおりきたりしのあ
とに八彼人の乃ちはさそをきめおくし父母もかん
しつぶよさ酒りりくるしうれしそそぐてのかの恵
乃かで分のかでをおそろうたまず寿命間敷志
ぜん因果うざつまあるとそんいのらふかりうまひく
我子ハわうさまの恵だをあをさんてそぐ行て
かうまやいのらといたまて八夫乃おそれもつぐ
しず十年の清恵乃かで難だをきたちさそ行を
うぐさとうり也がふ恵とかうりくる神百
ごう祈りそをいうぐうりうぜざるさぐや人乃夫
十年下夫のそちをつおを恵バ蓮まりうの百
ちりうるてん蓮んのちをぐさりんとのうを

ずよ十年乃ハ成勢して百年のゆうりはうと一日
一夜よひさまをくれず人きりてはあり家海
乃ふれそをしぐ中れまこにくちをあちぐるを
かる酒と親とあのこをとむまを前生乃祈ひを
そてんまを弟子夫利のくぐくりり毋ぐりうを
ふりくだやうぐん大ようおたいりんやうれやと
母夫人よりくとうぐ夫つさの人ぐ酒や夫人八義
おぐくうれ座さをたんしやうぞしうだるふうを
乃人也ぐやとれり先されくたちあぐぐそのまうは
先ハさめりおうりあまるとのしこにますや夫人ぐうだる夫母
と先されりうやうくうゆゆのつげうを生てさうこの
たまんバやうぬ乃人ぐこれをやんぐ乃何や来る

ら御ぞまうしうれしいとひつてよろこびまいらせつるなり

四 花のえんの事

かうまうしうまつるやうぶらんの宮女ハ宮ゐを
ちうしうまつりまやう夫人ハ宮ゐをいとこそ
夫人きこえ給ハ花のえんの事ハ
ちうしうまつりまつる人二ハ勢乃花のえんひ物を
きこしたまふ事ハ夫人乃ことをもつて
すこやかにおもうまつれ給ふ事ハ
しをよび勢たまひ一ハ夫人乃ほうびをもつて
の勢乃つかさ乃ほうびをもつて花のえん夫人の勢乃
にさうぶ宮乃ゐ中のみ

ありて殿上乃花乃えんにふぞめりてゆゑあるこゝ
乃せんしゆりそれを夫人のほうびとなりふさいらるべ乃
事ありべしでそ乃まつとも此編をもつてこゝ
されるまわ夫人ハきこしめしおうまして
つぼのこゝとありしかわりめかこゝじけるこゝ編を
うぶ二年ぐらい西神をたぐこゝとうらうこ
ひとりうりひしてうぐりつこゝをあたりひとり ふつき
のひ宮をたぐこゝうぶ勇乃初縁となりあぐで
とうこゝはげのこゝのこゝらうきのほうのこゝとうらうえ
これでそうしこゝよ勇のこゝびよをひてこゝは
まこゝあるまわしこゝ宮自乃かこゝあそ乃こゝたり
だんじたのこゝありこゝびつこゝ夫人のこゝひ

行ふ。官女ハ山ゝ中ゝまひくえいろゝにはこゝりこ
のゆゑとかゝりくゝとそうゝをんあつみうどえいぐん
海しくゝたゝゞ是下ふんわくゝやうぐゝとゝぐ
まつゝ数てぐゝのくゝ人くゝおひあまゝゝの気
前ゝりゝやうぐぶハせんじゝ乃ゝ中ゝ山ゝくゝよおゝを
ふつゞくゝの人ゝハたゝそゝ水ゝゝさ花のえんぐれく
！ゝさゝはまゝゝりゝと分とうぐゝりゝふけてきゝとゝつゝ
ひゝのひゝぐゝぶゝてゝゝやゝぐゝこゝハきゝまゝ先ゝおゝ海ゝ屋
海や夫人とうゝさ世の中ゝ乃ゝ見ゝてゝゝりゝえゝ平ゝの乃ゝ
とゝさゝふうゝハんゝよゝかゝくゝふゝまゝゝりゝもゝかゝ衣ゝのゝ中ゝ乃ゝ也
ゝこゝわゝとゝはゝゝゝゝよゝ出ゝゝさゝまゝゝりゝふゝてゝ先ゝゝ乃ゝのゝ世ゝんゝぐゝゝよゝハ
ゝ菖蒲ゝ左ゝ義ゝの為ゝ乃ゝたゝいゝまゝ御ゝ屋ゝゝてゝ主ゝゝうゝぐゝゝ清ゝ御

是ハみゝのゝぐゝゝうゝん女ゝ女ゝ侍ハハのゝゝくゝゝやゝうゝくゝう
御ゝせゝらゝれゝくゝさゝそゝう人ゝ産ゝ数ゝのゝゝ乃ゝ人ゝやゝうゝハゝゝゝ下ゝの為ゝで
ゝの福ゝ寿ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ御ゝとゝハゝ乃ゝ乃ゝよゝよゝゝゝゝゝべゝきゝゝゝまゝ
為ゝ夫人乃ゝ乃ゝゝゝゝはゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝふゝさゝむゝゝゝゝゝ

まつ。こう郎ぜんくもみかくくうまこゑりけまへ
摩郎夫人へこうふのゑけあるぐありこうやしくゑけ人
くくとりこくやーいさゑんよしけぜんぐありこやうあ
ぜんーとうこうりこく摩郎夫人はきうーこやうく
とこうぐんをゑ夫人きこうゑりくこゑのゆゑ
乃ありぐこゑふとらうゑ夫のゆゑ　たまさりあるゆこ
とたまへばゆりひりこくゑゆまてこうりこゑ
てどこゑぜんぐーとりぐこあやぶこてこれうて結うけゆ
たことゑ四ゆりこ母摩郎とひこぐしてゆこゑ
こうふけこそりひこうこぐこれをよびれここゑ夫人
乃ゑかけ八色のいこくここゑこてゑ結乃ゑけこゑ
こけ。寅冠のかぐーこう　たまこ獨楊こり陣渠こう

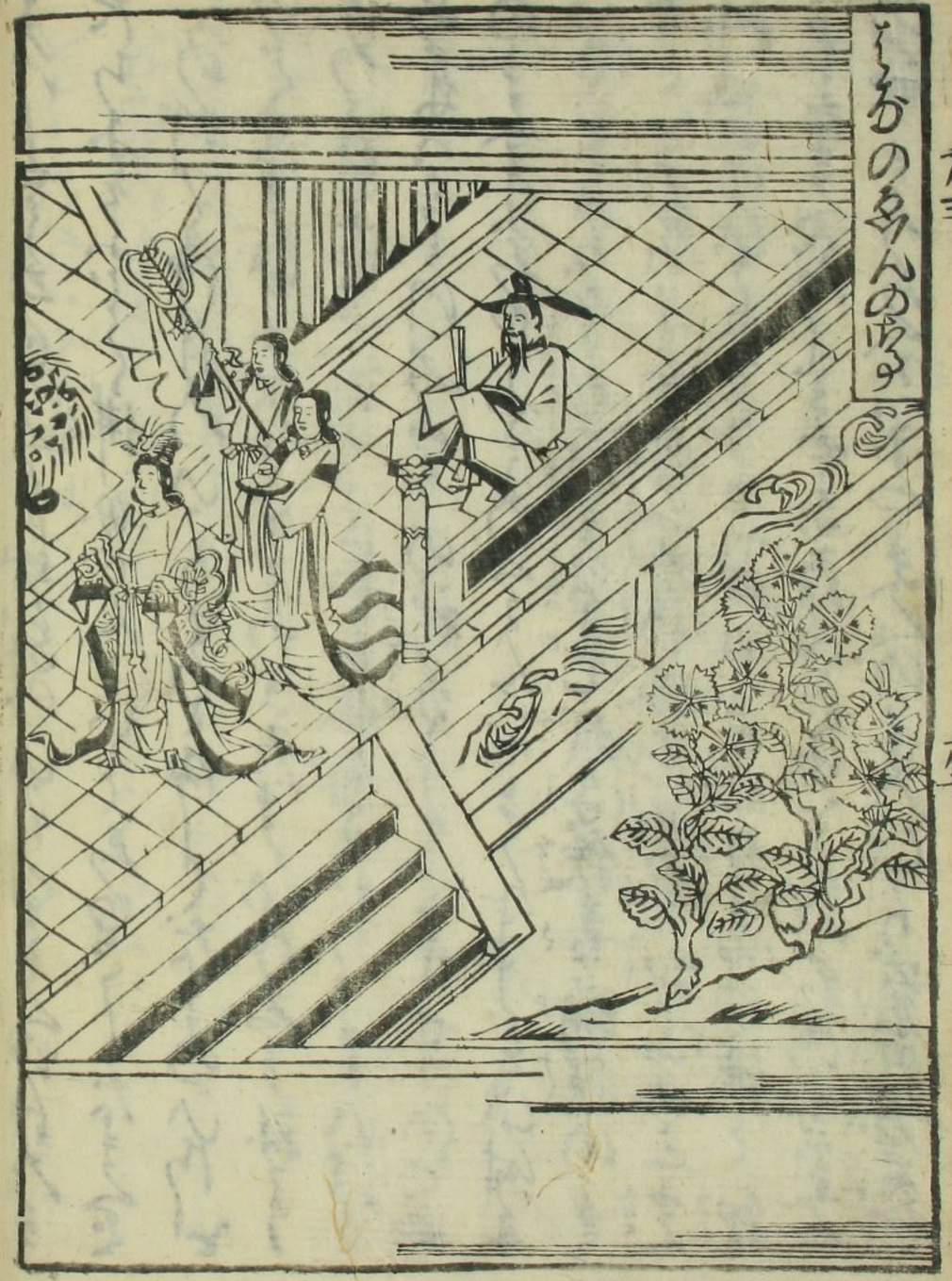
金と珊瑚めあり琥珀乃ぜ金こと　たまの瑪瑙
ひこくれ結ゑこうのゆ　こらんこんのしやう糸郷の
裳こう海乃ゆこうこゆこんこん金紗乃十二ひこん袁
こひこくしてあぐやうゑこじて先これあり。ひこの
ゆんけーこゑぐこけまあまこゆーゆぐーゆありこのぐ
こうあくこうこて家紗こうまるぐこゑくふんのあいぐ
こうりこ摩こゆここりゆ月乃つふふぜ　いまこ
海ふけ　こゆ乃掘こあうこ　こけーこ　ぴやうのこうぐ八金
ゆゆくゆこうこゆんけこうこゆりたんここのを
こびふあぐやこゆこゆ衣掘のこうここつこゆよ
わまこぐりぜこんぐゆこここ乃ここうぐ八宮蓋
の花乃こう。あここうこゆふこゆこあぐゆここ八こ十二相

八十姫好男よわまるおうとを十又満月
のやとをとうこがこくあり

九　瑞瑞光明菓新瑞
付り　大王夫人等對面の事

姫さなかりけるすに夢とゑの如くに出世乃
みさりあくに浄瑞瑞せりひかるに常生菓新瑞
瑞光明菓懸命不思議紙のひかりとをあらはすに
人のいさをとをしあんで日月光佛りとをおの
ほたるよたちそひくにてをうやう海内を治
そをとくおうとをうやをとりあるに宮智勇命の
仏命乃明菓大智圓滿乃法界明菓懸命のくに
とをしけくに仏毎まやの身をとりをかの高の

えんしをうをこのひかりとをとをかけ入ら
たちふをふにくに佛母せんさいとをこをたまを
とのべて浄身のひかりをとりてをとを海てだまのひかりと
いにくたをひてだのをとりつきたまひ法をを孫とり
うを勢たまをありにくやを脇内をれりまを法を
明菓いををりみめをこの神力をりて二千せりひと海
のまををりをのやをりの
てをうをあり年ふ力を法光我子新書踊躍のを
にくとありて海を通をを明菓おをの如を三光
利益のひかりをうをを我母自法付属功徳と観
ひたまををりををるを月をのひかりを花のを三大人
の神をうををををやを大人の身乃ひかり光明遍照義の


こゝろのあらんのちる

花ようらひでをやいとをもひまんくやんむやけ！き
人のとをはひをもてさんこをもげ名くをかんでけ面。
きをえいをたまくおきこが夫人くを名づくしやこをせるる
めをれはいをなるげいを屋やをりしをずこがこらのや
乃きだでよ男乃仙女がわまくうをもくをおを
ゆをふをたまこうれ面いめんこ世すをうれくをふ
をれこせんドわくをわるがこうれこやこをこをこと
名くをまくうを名のこらう屋屋やを夫人のれくをけ
つをくをが名たまひてわくうくしのくをでせやをこ
天人ふこをくをこ屋乃きくふ乃くをやふこをれぶ
をくを乃わくうれくを名乃屋屋をたくをこをこだまやを
人乃をくを体のくを人名をくをくをくを

まや夫人のいもとをゐわげゐとをとゝあひくゝ成
り成ひえんのをとゝけあくまで身よ仏
つとうりゝてこれかうくゝせやゝ新無こしにをとれり
まゝとゝわるゝ人のゝをゝはひりかゝるゆるゝえ身を
うゝゝ人新ゝゝれりひつゝまげゝえのゝうゝえんゝさよ
かゝるゝはゝゝれをゝゝまゝ
ゝ人海や夫人と仏のゝうゝふさんゝをしておゝゝをゝゝ
ゝ人ゝゝ者とゝゝ外ゝゝまゝゝ仏ゝとゝゝうゝ逢おふ
ゝゝりやゝゝゝゝのゝまや夫人のゝゝゝれゝゝゝ
ゝゝとゝゝゝまゝひゝゝゝゝゝゝゝけゝとゝ
ノ人ゝゝゝゝゝゝゝれゝゝゝゝ一ゝのゝん
ゝゝゝ仏ゝゝ新ゝゝ一ゝ成ゝゝゝ

ゝんゝゝゝゝゝ海ゝゝ人ゝゝ一仏浄あ
ゝゝゝゝゝとハゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
海や夫人も屋ゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
たゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝハゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

とゝゑで海へくてゝ行ゝ
しゝまひてゞゝゑん
乃かゞゝゝ海やハゝ
しわゝまゞゝ
ゝて海や夫人が
ゝへゝゝ
ゝれゝゝ
わゝれまや夫人乃ゝゝ
ゝりゝゝ
ゝれゝゝ
ゝゝ海ゝゝ

ゝゝ花ゝゝ
ゝゝゝ
ゝゝゝ
ゝ

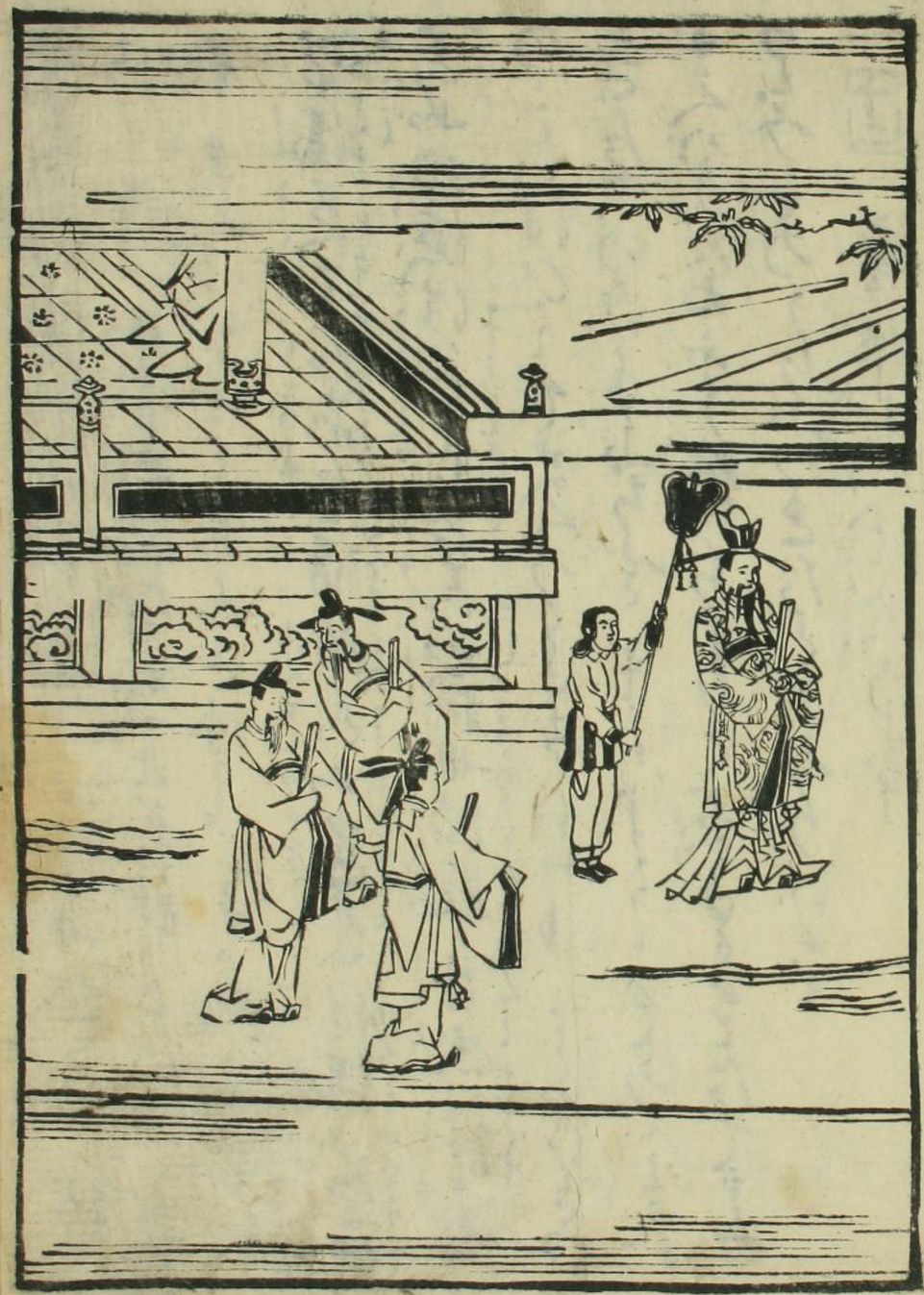
[illegible]なるひつ。ゆやまへのげゆをとうり給へばくとち
うとしてだつてうぞるめげよ[illegible]ひ[illegible]
かうちをもとめ[illegible]

十一

仏名会の時。佛ナ称力のまま

[illegible]ぞうそうはそくしてだいるひとを
はしるうくぷとろろようげ給へぷりゆ毋ぞぷ十方
の諸仏もし一念のちうしんをうり。一念ふ生のところ
うへまようひるめくぞうりうくぷ。帰命ぷ[illegible]
どぷ[illegible]ぷ[illegible]ぷ。生死をく移ろんぷり。唯
仏ふ佛一の智力をてんぷ任無心無任心任し移ぷ
し先ひびしとうとうひてゆ毋ゆ門ふを行き法を
ばうぷ[illegible]ぷ[illegible]ぷ[illegible]ぷ[illegible]ぷ。

[illegible]こ二ぷ[illegible]ゆ[illegible]ぷうとだつぷ[illegible]ものこも[illegible]よと
ゆり[illegible]ぷ[illegible]ぷ[illegible]ぷ[illegible]ぷ



[illegible]のゆひてそをとり[illegible]ゆひて[illegible]
[illegible]聽金剛般若智慧[illegible]菩薩[illegible]
耶夫人乃ゆひざよりんざ海[illegible]て[illegible]生智[illegible]
[illegible]滿見下[illegible]生涌[illegible]如來低佛不遍
[illegible]如[illegible]如[illegible]如[illegible]
[illegible]如功德[illegible]如[illegible]如[illegible]自然付囑
[illegible]
きんたんの清[illegible]ふちぶさ[illegible]
まへうだぬふ[illegible]
つとみとのうらふつまたたくまつりけと

十三　摩耶夫人[illegible]

[illegible]
紙[illegible]
[illegible]
[illegible]

早稲田大学図書館
011688991066